

大学と自治体との包括的地域連携協定に基づく連携事業

—九州女子大学・九州女子短期大学と芦屋町との初年度の試み—

○古城和子(九州女子大学・九州女子短期大学)・澤田小百合(九州女子大学・九州女子短期大学)・松田裕次郎(九州女子大学・九州女子短期大学)・本郷宣昭(芦屋町役場)

Keyword : 連携事業、地域課題解決、実践教育

【背景】

九州女子大学・九州女子短期大学(表1以下、「本学」)では、「地域に根ざした実践教育を展開する大学」として、平成27年6月1日に地域教育実践研究センター(以下、「本センター」)を設置した。本センターでは、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域との共生」の3本柱を軸として、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組んでいる(図1)。

本学は、北九州市や福岡市を始め、様々な団体(北九州商工会議所、協同組合折尾商連等)と協定を締結し、連携事業を推進している。

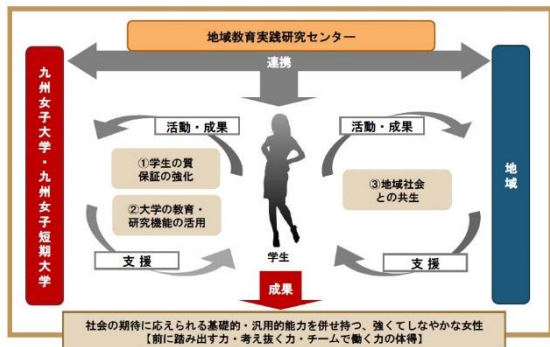


図1 地域教育実践研究センターの役割

芦屋町(表2)は、本学に隣接する市町のひとつで、響灘に面した自然豊かな海岸線や芦屋釜に代表される歴史文化に富んだ町である。豊富な資源を活かした観光施策のほか、住民との協働のまちづくりといった政策表現のため、大学の知見やノウハウ、学生の若いパワーを活かした事業の推進、町民との交流による地域づくりを推進しようとしていた。このような中、双方のネットワークから協議がはじまり、平成28年3月29日に「包括的地域連携に関する協定」を締結した。

本報では、初年度にも関わらず密接に事業展開できたことから、本学と芦屋町との連携事業について報告する。

表1 九州女子大学・同短期大学の基本情報

学部・学科(専攻)		取得可能免許・資格(抜粋)	
九州女子大学	家政学部	人間生活学科	中・高教諭一種免許「家庭」 二級建築士受験資格
		栄養学科	栄養士免許 管理栄養士国家試験受験資格
	人間科学部	人間発達学科(人間発達学専攻)	幼稚園教諭一種免許 小学校教諭一種免許 特別支援学校一種免許 保育士
		人間発達学科(人間基礎学専攻)	中学校教諭一種免許「国語」 高等学校教諭一種免許「国語」「書道」 図書館司書
		1,226名	
同短期大学	子ども健康学科	幼稚園教諭二種免許 養護教諭二種免許 保育士	
	専攻科	養護教諭一種免許	
		345名	

※1 人間発達学科(人間発達学専攻)の学生が、小学生を対象とした「土曜学び合いレーム」の学習サポーターとしてボランティアに行っている。

表2 芦屋町の基本情報

芦屋町
 場所：福岡県遠賀郡芦屋町
 人口：14,158名 6,475世帯(平成29年6月末現在)
 特産品：ヤリイカ、鱈、赤しそ、いわしのみりん干し

★九州女子大学・同短期大学 ●芦屋町 ▲福岡市教育委員会
 ▲北九州市、北九州市教育委員会、北九州商工会議所 ▲協同組合折尾商連

【連携会議】

本学と芦屋町は、連携事業を推進するため定期的な連携会議を開催し、表3に見られるように、逐次協議を行ってきた。さらに、個々の案件についての具体的連絡等は適宜取り合った。

表3 連携会議内容

回	月日	協議内容・事業番号	
第1回	4/13	芦屋町課題発見プログラムについて	2
第2回	5/18	本学と芦屋町の連携事業について	
第3回	6/10	本学と芦屋町の連携事業について	
第4回	7/6	芦屋町の地域再生マネージャー事業概要 さわらサミット開催概要 九州女子大学への支援依頼について	1
第5回	8/9	さわらサミット開催に伴う依頼事項	1
		芦屋町課題発見プログラムについて 壁面構成プロジェクトについて	2 4
第6回	9/7	さわらサミットの進捗状況について ^{*2}	1
		壁面構成プロジェクトについて	4
第7回	11/25	さわらサミットの進捗状況について	1
		壁面構成プロジェクトについて 地域交流サロンでの硬筆教室について	4 3
第8回	12/7	さわらサミットの進捗状況について ^{*2} ^{*3} その他の連携事業の進捗について	1
第9回	3/30	平成29年度の連携事業の内容確認	
出席者	本学：本センター所長、副所長、事務職員 芦屋町：芦屋町企画政策課課長、係長、職員		

※2 芦屋町が地域再生に取り組む町として、一般財団法人地域総合整備財団(地域再生マネージャー事業)の支援を受けていることから、一般財団法人地域総合整備財団が視察に訪れた(第6,8回)。

※3 一般財団法人地域総合整備財団の視察により、大学と自治体の連携について評価を得たことから、総務省自治行政局地域自立支援課が視察に訪れた(第8回)。

【連携の具体的内容】

1. さわらサミット推進プロジェクト

芦屋町では、一般財団法人地域総合整備財団(ふるさと財団)^{注1}の新・地域再生マネージャー事業により、既存資源のネットワーク化やブランド化を目指した取り組みを推進している。特にヤリイカに次ぐ水揚げがある鱈に着目したブランド化に取り組んでおり、その一貫として地域の機運醸成や人材育成を目的としたグルメイベント「さわらサミット」を開催した[平成29年2月25日(土)・26日(日)]。この事業実施において、本学の持つ様々なノウハウ活用や学生の参画により、これまでにない地域イベント創出とブランド化に寄与した(表4)。

注1 地方自治体の充実強化のため、地方公共団体と密接な連携の下に、民間能力を活用した地域的な振興・整備および融資業務を支援することを目的とした一般財団法人。

表 4 さわらサミットにおける本学の協力内容

協力内容	担当学科	学生数
学生の実行委員会への参画	人間生活	9人
教員によるロゴマークをデザイン	書道教員	0人
学術パネル(食文化・歴史)の作成	人間生活	6人
保育園児のリズムダンスの振り付け	子ども健康	4人
書道パフォーマンス	基礎学専攻	9人
ダンスパフォーマンス	子ども健康	3人
ドレスコレクションの実施	人間生活	8人
教員指導による「さわら巻き」の開発・出店	栄 養	5人
計		44人

来場者数/9,100人、投票総数/4,700票
 参加店舗数/11店舗、協力店舗数/3店舗
 全店舗の提供食数/7,900食、本学の提供食数/751食



さわらサミットポスター



学術パネルの展示



さわら巻きの出店

2. 芦屋町課題発見プログラム

人間生活学科のカリキュラムの中で、芦屋町をフィールドに課題発見プログラムを実施した(表5)。本プログラムは、アクティブラーニングを中心に構成しており、この取り組みを通して、知識を展開できる思考力が養われたことがPROGテストから明らかとなった。このことから、一連の活動により「人が集う町、芦屋をめざして」をテーマに、安全・美化・観光の3分野でテーマ設定を行い、提案書を作成、報告することができた。

今後の課題としては、学生に対する評価の齟齬を無くするため、評価者(教員)の研修が必要となる。

表 5 課題発見プログラム実施内容

実施日	実施内容
4月~5月	グループ事前研修
6月	芦屋町散策と課題発見・グループディスカッション
7月	課題解決ワークショップ・中間発表
10月~11月	グループ活動
12月~1月	ジグソー学習法・成果報告会
参加学生数	40人

3. 地域交流サロンにおける公開講座(硬筆教室)

芦屋町の高齢者を対象に本学の教員(書道担当・古典文学担当)による公開講座「えんぴつでなぞりながら読む徒然草」を行った[平成28年12月5日(月)]。これは、芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するものである。

本講座では、「徒然草」の成立、作者、内容、およびえんぴつの持ち方から美しい文字の書きかたを説明し、硬筆教室だけでは学べない「筆読」という体験を行った。受講者の方々からは、再度講座を受けたいという意見が多く好評を得ることができた。



公開講座の様子・テキスト『えんぴつで徒然草』

4. 壁面構成プロジェクト

芦屋町の地域振興や課題解決のひとつの手法として、本学のノウハウを活かした、住民参画による景観づくりについて企画する目的で、芦屋町内を視察した[平成28年8月1日(月)]。

この結果は表6のとおりであるが、町の計画との整合を図る必要もあるため、平成29年度の協議事項とし年次的にステップを踏んで進めていくこととしている。

表 6 視察結果・今後の取り組み

アクアシアシアン施設計画
テーマ：「水族館を作ろう！」3プラン 内容：海の生き物の絵を描こう 対象：子どもたち ① 透明のビニールシートに描き、レジャープールアクアシアシアン管理棟の円形に空いた天井から吊るす ^{図2} 。[問題点/吊り下げ方法] ② 流水プールの橋の下に描く。または、学生が描くことも選択肢として含む。[問題点/夏以降の制作] ③ ワークショップで完成した絵を学生の手によって、施設内で何らかの形で展開する。[問題点/内容が不透明]
駐輪場施設計画
対象：地域住民 季節に応じた草花を育てる。また、その草花に合わせて建物にペインティングを行う ^{図3} 。[問題点/水場、足場の設置]
丸の内住宅および倉庫施設考察
対象：アーティスト 丸の内住宅(町管理のアパート)は、アーティストが芦屋町に滞在し、ワークショップや展覧会を開催してもらう際の宿泊先として適していると思われる。[問題点/宿泊、生活するために必要なものが足りない]

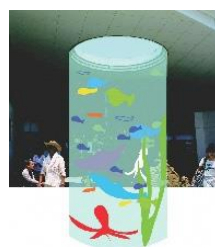


図 2 アクアシアシアン管理棟イメージ



図 3 草花の植付、建物ペインティングイメージ

【成果・今後の展開】

平成28年度は、連携初年度であったことから、上半期(4月~9月)は連携内容について協議を重ねることが中心となり、下半期(10月~3月)から本格的に連携事業を実施できた。

この連携事業を通して、芦屋町の住民と様々な場面で接する機会が増えたことから、学生のコミュニケーション能力の向上が見られ、地域をフィールドとした実践教育を展開することができた。また、間接的には芦屋町の活性化等の一助と成り得た。

今後の展開としては、これらの連携事業を継続し、内容の充実を図るとともに、更に研究活動に繋がられる方策についても併せて考えたい。また、芦屋町との連携事業で得た知見をもとに、他地域とも連携事業を推進したい。

【引用・参考文献】

- 福岡県地図
http://www.2m.biglobe.ne.jp/ZenTech/japan/map/data/fukuoka_outline.gif
- 芦屋町役場公式HP
<http://www.town.ashiya.lg.jp/>
- 九州女子大学・九州女子短期大学 地域教育実践研究センター
 『平成28年度地域連携事業報告書』